

雪と気象の 150年

北海道の観測が語る環境と暮らし
ー観測と研究がつなぐ雪と人との歩みー

- 北海道では 150 年に及ぶ気象観測が雪氷研究や防災を支えてきました。本講演会では、その歩みをたどりながら、観測と研究が地域社会の冬をどのように支えてきたかをご紹介します。

2026年 9月 13日(日)
14:00～16:00 (開場 13:30)

北見工業大学 2号館 C122講義室
(北海道北見市公園町165番地)

定員 200名 (入場無料 事前申込不要)



1890(明治23)年頃の札幌測候所(現在の札幌市北区北8条西9丁目)

講演1

気象観測150年
ー北海道の気象の
記録をひもとくー

札幌管区气象台
気象防災部長

関野 裕功 氏



講演2

観測データが支える
雪氷研究と地域防災

北海道教育大学
札幌校キャンパス長

尾関 俊浩 教授
(日本雪氷学会 北海道支部長)



パネルトーク・質疑

雪と気象の未来へ ーひとことメッセージー

北海道各地の記録写真を題材に、観測の現場と雪氷研究の視点を結び、
これからの北海道の雪と気象を皆様とともに考える場とします。

パネリスト 札幌管区气象台 気象防災部長 関野 裕功 氏
北海道教育大学札幌校キャンパス長 尾関 俊浩 教授
(司会: 白川 龍生(北見工業大学 地域と歩む防災研究センター))

主催 雪氷研究大会(2026・北見)実行委員会
共催 気象庁札幌管区气象台, 北見工業大学 地域と歩む防災研究センター
後援 自然災害研究協議会(本部:京都大学防災研究所)北海道地区部会

この講演会の様子は、後日アーカイブ配信予定です。詳しくは大会ホームページをご覧ください。

雪氷研究大会
(2026・北見)
大会ウェブサイト



短縮URL
<https://x.gd/OgT97>